

平成 28 年度

事業所名 : グループホーム 平泉

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372600262		
法人名	シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム平泉		
所在地	西磐井郡平泉町平泉字日照田133-2		
自己評価作成日	平成 28年 10月 2日	評価結果市町村受理日	平成29年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0372600262-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 28 年 10 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の小さくても「出来る事」を見つけ出し・作り出し力にしていきたい。毎日を楽しく笑いのある日々出来るように心がけている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの周辺は農村風景が広がり、それに続く小高い山々を望むことができ季節の移り変わりが感じられる自然豊かな環境の中にある。「人とのつながり」「愛あるケア」そして「地域との関わり」を大切に、利用者も職員も共に「今日も一日いがったなあ・・・」と言い合えるような暮らしの支援に取組んでいる。利用者視点でのケアサービス提供を基本姿勢に、入居前の生活歴等をホーム独自のシートにおこし、丁寧に利用者の全体像把握に努め利用者理解に繋げている。地域との関係づくりについては課題をもっていたが、まず近隣住民とふれあう機会を持つようにしホームの様子を知ってもらうことが大切と考え、散歩の機会を増やしたり建物内で行っていた行事を屋外で開催したり、夏祭りへの参加を呼び掛けるなど地域住民との交流に積極的に取組んでおり、今後地域とともにある事業所として信頼されその役割りを果たしていくことが期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム 平泉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方と認知症の方や高齢者を支えているよう運営推進会議などで話し合っている	職員は、共有スペースに掲示している理念・方針を頭に置きながらケアに当たるとともに、利用者皆さんが、「いがあったな」を感じた暮らしができたかどうかを日々確認しあい、開設当初職員皆で作らあげた理念・方針の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでの行事の際、地域の方たちにも参加して頂けるよう案内をしている	外気浴や散歩の際の挨拶は勿論、道路に面した屋外活動を取入れ地域の方々の目に触れる機会を作っている。芋の子会などのホーム主催行事に参加いただき、踊りのボランティアの訪問を受けるなどお付き合いが少しずつ深まってきている。	ホームの暮らしやホームの行事などについて、普段から地域の皆さんにお知らせ・案内をすることにより、ホームへの理解を深めてもらいながら、交流の活性化を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実際のケアを通じ認知症の方との関わりや支援の仕方を提案できるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居している利用者様の状況を話すとともに困難事例を外部の方から見てどのようなケアが必要か助言も頂くようにしている	過日の台風に関連して洪水対策の意見が交わされ、ホームの避難体制などについて具体的検討がなされている。新たに地域の居宅介護支援事業所の参加を得て意見をもらうなど、会議の活性化に向け取組みを進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を元に時には利用者様個別の話し合いを行い他のサービスへのつながりや検討をしている	運営推進会議のほか、「医療と介護の連絡協議会」での情報交換、電話やメールでの助言や諸連絡など、普段から緊密な連携が確保されている。特に利用者の困難事例対応や待機者などについて、円滑緊密な連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「具体的行為」を元に利用者様の安全や場面での必要性を検討しながら身体拘束をしないケアに取り組むようにしている	ホームに関係すると想定される拘束事例(車椅子、ベッド柵など)について、日々意識の共有を図っている。今後は、特に言葉による拘束・スピーチロック(制止・抑制)について、皆で注意・確認し合いながら、ケアに努めたいとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はしてはいけないものと常に念頭に置き虐待にならないよう利用者様の気持ちの理解に勤めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利確保の為にどのような公的制度があるか話し合いを行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時説明を行う他、内容などの不明点がある際はいつでも問い合わせいただけるよう声を掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの要望があった際は運営推進会議、スタッフ会議などにより意見・要望を取り入れより良い運営が出来るようにしている 意見要望箱を設置している	家族の来訪時には声を掛け、話しやすい雰囲気づくりに努めている。家族には入居者一人ひとりの一カ月の様子写真等を添えた手紙を毎月送り報告しているほか、意見要望箱を玄関わきの外壁に設置し、広く意見を貰えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を通じ運営についての意見などが聞かれた際は管理者を通じて代表者へ意見の提案をするようにしている	職員会議やケア会議はもとより日常のケアの中で意見、提案を出し合うなど、職員間で話し合う関係づくりが出来ている。AEDの設置など内容によっては運営本部に伝え改善や解決に繋げるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士、職員の状況を勘案し、労働時間の調整や環境整備を代表者に提案している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間で個々の能力を活かしながら研修を行ったりしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員・機会の不足で業者との交流を持つ時間が無い		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の状況を把握しご本人の生活上の課題を中心に安心していただけるよう提供内容を提案している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を取り入れつつホーム内で支援可能なこととお話し、関係を作れるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、ホームの見学をして頂き生活環境や雰囲気を見ていただくようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のADLや元の生活環境を勘案し、家事をお願いしたり手伝っていただいたりしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	提供しているサービスについてご家族にお話をしたり、自宅での状況を聞き本人により合ったケアが提供できるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも友人の方など面会していただけるようご案内している	親戚や遠方に住む孫、隣近所の方が面会に訪れた際には、食堂や居室でゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。馴染みの関係が日々少なくなりつつある中、訪問理髪などの新しい馴染みの関係が続くよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のかかわりを見守りを中心にしながら職員がサポートしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族様でもホームでの行事に参加していただけるようご案内をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な範囲で希望を受け入れながらもご家族様の協力を得つつご本人の希望に添えるよう努力している	利用者一人ひとりの生活歴等を把握するとともに日常の会話や表情、行動から思いや意向を引き出し検討している。独自に作成しているフェイスシートを基に全体像を掘り下げ、利用者視点を意識しながら支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に利用していたサービスの状況や自宅などでの過ごし方に関係者、本人にも聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1つの事柄を細かく区切りどの時点で本人の力が有効か職員同士で観察・話し合いを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員による日々の気づきを元に本人にとって良いであろう内容を取り入れている	利用者ごとの担当制とし、日々のケアに当たっている。本人、家族の意向や職員の気づき、意見を反映した介護計画を作成し、定期的に関催するカンファレンスにおいて状況を確認しあいながら見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を中心に日々の利用者様の様子を記録している、また特に重要な事柄は申し送りノートを活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況を踏まえて外部のサービスの提供・紹介を行っている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	要望により地域の行事などの外出などご家族の協力の下に行っている			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から受診している病院を引き続き主治医としている、変更などがある際はホームの協力医療機関など本人の病状や家族の同意の下紹介をしている	かかりつけ医は入居前から利用者が通院しており、安心かつ適切・円滑な医療が確保されている。病院の受診は、家族の同行を基本にしながら、家族の都合によっては、職員が同行するなど、臨機応変に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は居ないが、受診の際にはホームでの生活状況など主治医に報告のメモを家族を通して渡しみていただいている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居時の身体状況など必要に応じて提供している			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が見込まれる際はその後提供できるサービス内容について家族に相談し、同意を得て他のサービスへの紹介も行っている。また運営推進会議でもその旨報告している	現在、看取り対応が必要な利用者はおらず、指針は作成されていない。予め家族にはホームで出来る事、出来ない事を説明している。施設内設備で入浴出来なくなった段階で再度家族と話し合い、他施設の紹介を行なうなど、本人、家族の意向を確認しながら取り組むこととしている。	終末期の対応について、職員の安心につなげるべく、例えば研修等の機会をつくるなど、今後の検討を期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署協力の下救急救命訓練を毎年行っている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や避難経路の確認を行っている	定期的訓練は、昼夜・火災を想定して実施している。迅速な対応を可能にするよう119番通報専用電話も設置している。今後、近隣住民の理解協力を得て訓練を実施したいとしている。	火災や地震、水害等の災害はいつ起こるかわからない事を踏まえ、その対応に取り組んでいるが、利用者の安全を確保するためにも近隣住民の協力が得られるような体制づくりが望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者に合わせて不快感を与えないような声掛けを行っている	「今日も一日いがったなあ～」を実感できるよう、嫌なことはさせず、無理強いせず、本人本位のしたいこと・できることをして過ごす暮らしに努めている。命令口調や呼び捨て等利用者の誇りを傷つけないよう心してケアに当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から要望を聞きだし、本人が自己決定できるよう勤めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の生活ペースを大切に自由に過ごしていただけるよう見守りを中心に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前から使用している衣類などでおしゃれを楽しんでいただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや季節感のあるメニューを提供している職員と利用者が一緒に食事をし、片付けなども一緒に行っている	利用者の希望や旬の食材を取り入れたメニューで、利用者の力(もやしのヒゲ取りなど)を借りながら食事を作っている。食事は職員と一緒に摂り、下膳や食器拭きなどは利用者の気持ちや持っている力を活かし職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量に合わせてバランスよく提供できるよう心がけている、摂取した量を記録に取っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人に合わせてうがいや歯磨きなど食後のケアを行っている、状態に応じて液体は磨きの利用やブラッシング介助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前後にトイレへの誘導を行っている。オムツを使用している利用者でも可能な限りトイレでの排泄が出来るよう支援している	オムツ等利用の方がほとんどであるが、適時適切な声がけ・誘導をしながら、トイレ排泄を促し、排泄の自立の維持継続に努めている。排泄のチェックはもちろん、水分の摂取にも注意しながら、夜間のトイレ誘導・排泄にも心配りしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を活用し排便の調整をしている。食事の際に乳製品を取り入れたりしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めていない、希望者を中心に入浴間隔を見ながら声掛けをし入浴していたくようにしている	好きなときに、毎日でも入浴できる体制をとっている。一人で入浴を楽しむ方が殆どであるが、職員と一緒に話しながら、歌を歌いながら入浴している人もいるなど、利用者のその日の希望に合わせて楽しく入浴できるよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団などの掛け物や室温の調整を行いゆったり休んでいただけるようにしている、状況に応じて居室での休憩を勧めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬が無いよう服薬時間や量が分かりやすいよう服薬時間ごとに区分している。服薬中に変化があった際は主治医への相談を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物など職員と一緒にいながらもあえて利用者様をお願いしたりしている。天気の良い日に園庭への散歩を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って家族の協力の下床屋やドライブなどの外出が出来るようにしている	車いす使用者が増え介護度も高くなってきているが、利用者の希望やその日の体調に合わせ、随時の外出を心掛けている。町内の桜の花見、紅葉狩り、あやめ鑑賞に出かけたり、家族の協力も得た通院がてらの外食を含め、出来る限り戸外に出る機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族理解の下希望がある際は小額でも本人が持てるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際は電話を掛けたり支援をしている。お孫さんから手紙が届いたりもする		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム周辺の景色から季節が感じられるように廊下にイスを置いて外を眺められるようにしている	季節に応じた温度、湿度管理を行ない全館床暖房となっている。気になる騒音や不快な匂いはなく、狭いながらもゆったりと感ずるようテーブルと椅子が置かれている。小上がりの畳のスペースには、掘りごたつとテーブル、大きな金魚鉢が置かれ利用者の目を楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士会話を楽しめるようテーブル席等工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具や布団を持ってきていただきゆったり過ごせるよう支援している	持ち込んでいるものは、着替えなどの衣料品が殆どであり、その他は時計やカレンダー、家族写真などである。整理整頓や清掃が行き届き、居心地の良さを感じさせる。出入り口には、自分の部屋を演出する可愛い表札が掲げられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印や声掛けなどで自立した生活が出来るよう支援している。全館バリアフリーで安全に過ごしていただける		